

未来

郵政産業ユニオン
PIWU
 全労協・郵政産業労働者
 ユニオン長崎中郵支部
 機関紙・「みらい」
 NO. 4146
 '21年4月30日(金)
 Tel・Fax 095-828-1953

おはようございます。

第92回メーデー万歳！働く人の団結で コロナに負けずに、命と権利を守ろう

コロナ禍の中の二度目となる第九二回メーデー万歳。働く人の団結で、コロナに負けずに、命と権利とくらしを守ろう。

今年のメーデーは五島町公園での地区労働者メーデーのミニ集会とデモ(江戸町公園まで)だけで、支部は代表参加となる。県労連もみなと公園のスタンディングアピールだけとなる予定だ。

今年の最大の情勢は、米英などの世界が富裕層の増税へと舵を切ったことと、世界最高の富裕層でアマゾンの創業者らが、この増税策を支持すると声明したことだ。

歴史的に言えば、支配の側の人々が個人の意思で、自らの資産を放棄し、被支配の側の利益のための社会へと、支配の仕組みを変えた歴史は存在しない。

十八世紀の産業革命で生まれた資本家(富裕層)と働く人(労働者)の富の配分の偏向は、この二百年で最悪である。それは富裕層の上層部の1%が、世界人口の半分の人の資産を保有する富の独占の時代であり、富裕層をしても「これ以上やっつけいけない」情勢となるからだろう。

その中に突然到来した新型コロナウイルスのパンデミックで、四月下旬現在、世界で一億五千万人(全体の2%)が罹患し、三百一〇万人が死亡している。(実数はもっとある)。いまの世界の課題は、コロナと戦う人類共同の科学と医学であり、政治であり、社会全体である。そのため武器は、人の命を救うための金・資産と人々の英知である。

いま富裕層はこの過程でも、その経済的仕組みを利用し、日々、資産を異常に増やし続けており、当然ながら世界からの非難を浴びている。彼らがこれから逃れる道は、富裕層の増税で、コロナ禍の危機を救う以外になく、これが唯一の道だろう。

かかる時代に、個人的な金儲け、あるいは政治的な利権に走るならば、それは社会的存在では善の人ではなく邪の人となる。

いま正しい人の生き方はなにか。それは自らの命の危険を冒し、日夜、奮闘されている医学界の人だ。これからもわかるように、人の世は働く人の必死の努力で成り立っているのだ。

この歴史を長崎の一六〇年前の出来事から振り返る。

一八五八(安政五)年の幕末、江戸幕府は鎖国(海禁)を解き、国を開くが、同時にコレラが長崎から侵入・発生し、一気に全国へ蔓延する。

このとき江戸だけでも死者は二万八千人(人口の5%)であった。当時の長崎の実数は不明だが、仮に比率を同じとすれば、現行でいえば四二万人の市民のうち約二万人が亡くなることになる。大パニックだったろう。

この異常なパンデミックを受け、長崎の医学界(蘭学派)は、出島のオランダ医のポンへの指導で江戸幕府を説得し、長崎のいまの西小島町の高台の佐古地区に、小島養生所と医学校を作り、コレラと戦う。ポンペらは貧しい人々を無料で治療し、かつ多くの医学者を育てたのだ。



一六〇年後、いま新型コロナウイルスでのパンデミックの時代。二年目を迎えて第四派の中である。日本ではいまだに自前のワクチンすら開発できず、投与でも最後進国であることが明らかになった。

細菌やウイルスや病気の根絶はできない。であれば重症化しないためのワクチンが絶対に必要なのである。

今やるべきことは自分だけ自社だけ、自国だけの金儲けではなく、国外にあっても対立や戦争でもなく、ただ、国民の命をコロナから守ること、国の経済を立てなおし、貧困と格差を生んだ経済体制変え、人々が安心して暮らせる社会を作ることである。

第九二回メーデーでは、少し変わったメッセージだが、郵政ユニオン長崎としても医学界の人たちの奮闘に感謝の言葉を送り、一刻も早いコロナ収束となることを心より願う、メッセージとしたい。



期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を雇員の正社員化を。

ゆげ、均等待遇を。

なつこ差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利を。